採血についてのご説明

採血は、血液を検体とする臨床検査を行うために必須な医療行為です。
特に甲状腺疾患の診療には不可欠なものであり、当院の採血室では一定のトレーニングを修了した臨床検査技師が医師の指示のもと担当しております。基本的には安全な手技であり、採血に伴う合併症の頻度も一般的には極めて低く、またその程度も軽症な場合が多いと報告されていますが、以下のような健康障害を生じる可能性も予測されます。
当院では標準採血法ガイドラインを遵守し採血を行っておりますが、より安全に採血を受けていただくために、ご理解とご協力をお願いいたします。
リスクの少ないとされている親指側の血管から採血を行うことが安全とされていますが、血管が見えにくい場合は、他の部位から行います。以前採血時にしびれ、激しい痛み等があった場合は遠慮なくおっしゃってください。
また、血液透析中の方や乳房切除手術を受けられた方は事前にお知らせください。

かゆみ・発赤（アレルギー）

消毒アルコール、スタッフの手袋、止血テープ等により、かゆみ、発赤を起こすことがあります。アレルギーをお持ちの方はお知らせください。

採血部位が腫れる・青くなる（皮下血腫）

主に採血後の不十分な止血により起こります。5分以上、もまずに圧迫止血を行ってください。ワーファリン、アスピリン等の血液を固まりにくくするお薬を服用中の方はさらに長く押さえてください。

採血中にめまい・冷や汗・意識が遠くなる（血管迷走神経反応）

採血中あるいは採血後（多くは直後）、一時的に血圧が低下するために、めまい、冷や汗、失神などが起こることがあります。以前にこのような経験があった方はお知らせください。ベッドにて採血を行います。

針を刺した時の激しい痛み・しびれ（神経損傷）

通常、ひじ周辺の血管から採血を行います。血管周辺には、表面からは判断できない無数の神経が走っています。このため1万～10万回に1回程度の割合で、この神経に針が触れることにより、しびれ、激痛、マヒが起こることがあるとの報告があります。多くは3週間以内で、長くとも3ヶ月程度で症状は改善されます。

採血は医師の指示の下であれば医師自身が行う必要が無いとされている心身への負担が少ない医療行為であり、改めて同意をいただくことなく診療の一部として施行しております。

上記の合併症が起きた場合は最善の対応を努力いたしますが、必要な診療につきましては通常の保険診療として行うことになりますのでご承知ください。これらの点につきましてあらかじめご理解をいただきますようお願い申し上げます。
ご不明な点がございましたら、採血担当者に遠慮なくお尋ねください。

名古屋甲状腺診療所
2025. 9. 8